

＜ もくじ ＞	
1. 今年度連続講座第5回の受講申し込み受付中です	1
2. 「調査へのご協力をお願い」	1
3. 学会機関誌「エイジレスフォーラム」第14号掲載原稿募集	2
4. 「第2回研究会合同イベント」開催のご案内（予告）	2
5. 第3回戦後70年座談会「言いたい・聴きたい・反論したい会」概要報告	2～3
6. 研究会からのお知らせ	3
7. 各研究会の概要報告	3～5
8. 「大磯コミュニティ・カレッジ」講演会のご案内	5～6

## 1. 今年度連続講座第5回の受講申し込み受付中です

第5回講座の概要をお知らせいたします。受講のお申し込みをお待ちしております。

◆第5回講座は、2016年1月23日（土）開催です。◆

講演テーマ：「あなたらしい葬儀と墓」

講師：荒井 浩道（駒澤大学教授、当学会理事）

（講演要旨）

わたしたちの価値観やライフスタイルの変化にともない、新しい供養のあり方が注目されています。近親者だけで行われる「家族葬」、通夜をしない「1日葬」、葬儀は行わず火葬のみという「直葬」、墓石を必要としない「樹木葬」や「散骨」、遺灰をロケットで宇宙に運ぶ「宇宙葬」（流れ星供養、月面供養）、ゴルフボールやサッカーボールの形をした「個性的な骨壺」、遺骨から抽出された炭素をもとに作られたアクセサリ「遺骨ダイヤモンド」、職人の手作業により生産される「新型霊柩車」、ネットで僧侶の手配ができる「お坊さんの宅配」などが登場しています。このような潮流を手がかりに、「あなたらしい、自分らしい」葬儀と墓について、具体的に考えていきたいと思っております。

※全6回のテーマ&講師については既にお送りしましたチラシかホームページをご参照ください。

1) 場 所：東京銀座・資生堂 9Fホール

2) 開催要領：各回とも、14時～16時の開催。募集人数は最大45名。

各回の参加費は、会員2500円、非会員3000円。会場にてお支払いください。

※お申し込みは、①氏名、②参加の講座、③連絡先を明記し、eメール、FAXで事務局まで。

※今後とも各回ごとにJAAS Newsなどで随時お知らせいたしますが、ご家族やご友人などにもお声掛けをお願いいたします。多数の方のご参加をお待ちしております。（事務局担当 鈴木）

## 2. 「調査へのご協力をお願い」

日本社会事業大学大学院の佐藤惟さん（会員）が、65歳以上の会員の方々を対象にアンケート調査を実施することが運営委員会です承されました。高齢期を迎えた方が、人生の最終章の過ごし方について、どのようなお考えをお持ちになっているのかを、お尋ねする調査です。調査の結果は、学術的な目的にのみ利用し、個人情報漏れることは絶対にありません。調査票は1月上旬に発送の予定です。お忙しいこととは存じますが、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（シニア社会学会会長 袖井孝子）

### 3. 学会機関誌「エイジレスフォーラム」第14号掲載原稿募集

(一社)シニア社会学会の広報誌のひとつである「エイジレスフォーラム」第14号に、会員が執筆された著書をご紹介します。下記の要領でお送りください。

○過去3年以内に出版された著書または共著を紹介します。

○応募方法：紹介します著書(表紙画像掲載の為)と書評(著者による内容紹介でも可)を下記  
あてお送りください。

○書評文字数：1100字以内厳守

○書評はeメール(jaas@circus.ocn.ne.jp)で事務局宛お送りください。

○締切り：2016年3月15日必着

○著書送り先：〒150-0002 渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

一般社団法人シニア社会学会・事務局 担当武者宛て

尚、著書は編集終了後返却いたします。

### 4. 「第2回研究会合同イベント」開催のご案内(予告)

当研究会合同イベントは、学会の5つの研究会が連携し開催する行事であり、第2回は、濱口研究会「シニア社会のリテラシー研究会」が担当します。企画の概要をご案内いたします。

1) 日 時：2016年3月26日(土) 14:00~16:30

2) 場 所：日本労働者協同組合連合会会議室(第1回と同じです。)

(池袋駅東口北より徒歩5分 I SPタマビル8階)

3) タイトル(仮)：コミュニティ学のススメ〜ところ定まれば、ところ定まる〜  
—語り合おう！コミュニティが抱える諸問題について—

4) 趣 旨：濱口研究会は、書籍『コミュニティ学のススメ』を2016年3月上旬に発刊します。  
そこで発刊ほやほやの当著書(参加者には資料として配付します。)をベースに、執筆  
した研究会員の問題提起と各研究会から登壇されるスピーカーそして会場の参加者と  
で、コミュニティの今日的課題について大いに語り合おうという企画です。

5) 参加費：1,000円(義援金、資料代他を含む)

6) 募集人数：50名

7) 申込方法：お名前、連絡先をeメール、電話、FAXで事務局まで。

8) お問い合わせ：事務局まで(担当：島村)

※ 11月14日(土)に行われた「あれから5年-私たちはフクシマを忘れない」第2回シンポジウムの報告を今号に掲載すると前号でお知らせしておりましたが、紙幅の関係で新年号に送らせていただきます。ご了承ください。

### 5. 第3回戦後70年座談会「言いたい・聴きたい・反論したい会」概要報告

第3回は11月18日(水)、袖井会長を囲んで常連ともなった8名の出席者で開催された。シリーズ最終回に相応しく主題は次世代に向けた「平和と安全を維持するための提言」。

第1に「戦争体験」を次世代に伝えること。児童文学者、NHKの特集番組、出陣卒業生の記録を大学のゼミで、憲政記念会館の展示等各方面で盛んである。一方で戦中・戦後の辛い記憶を消してしまいたいという体験者心理もあるが、肝心の教科書の記載に問題がある。歴史に対する評価が定まっていないので、先生も教えられない。戦争の苦しみ、悲慘さを共有・共感し、戦争やテロについて「なぜ」を考える上にも歴史認識は必要と全員が一致。

第2に憲法を守ること。解釈で変えるのは乱暴すぎるが、「日本会議」の影響力は大きい。国際情勢が変わり会話が成り立たなくなっている上での防衛を考えないと。国連はアレンジをするが有効に機能しない、中国は国際世論を無視、ロシアも自国の利益を優先。日本が連携をするなら米国しか

い。パートナーとして主張すべきはする、情報ネットワークと信頼関係の構築が重要。

第3に世界に通じる人材育成。ワシントン、北京あるいはベルリンの中核と渡り合い、国際会議で対等に話し合える人材を多く輩出する。そのためには開発型の教育を！学会が遅れを取ってはならない。

座談会は簡単にはまとめきれないほど縦横で奔放、しかも深みのある議論に終始したことを報告します。  
(安田和絃 記)

## 6. 研究会からのお知らせ

### (1) 第15回ガバナンス研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年1月16日(日) 16:00~18:00
- 2) 場 所：地域サロン「ぷらっと」(JR 武蔵境駅北口徒歩5分)
- 3) テーマ：「政治・経済・社会—今年を占う」
- 4) テキスト：なし
- 5) 参加費：1コイン
- 6) 申し込み：m\_kawa@musashino-u.ac.jp (川村理事)

### (2) 第92回 社会保障研究会 開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年1月20日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：山崎ほなみ(有限会社 ワイ・ビー・エス)
- 3) テーマ：オランダ介護事情(仮)
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会会議室(ISP タマビル8階)

※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

### (3) 第29回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2016年1月28日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：① 出版の進捗状況と今後の課題について  
② 3月26日(土) イベントについて
- 4) 参加費：300円

(島村 記)

### (4) 第28回「災害と地域社会」研究会開催について

- 1) 日 時：2016年1月27日(水) 18:00~20:00
  - 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館第11会議室
  - 3) 報告者：小林秀行(東京大学大学院学際情報学府博士課程)
  - 4) タイトル：「復興期のコミュニティにおける調整機能の維持戦略—緊急コミュニティ組織による分業構造を視点として—」
  - 5) 参加費：500円(学生は無料、ただし社会人入学者を除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原(fukuhara@jaas.jp)迄お寄せ下さい

### (5) 「シニアのICT活用研究会」の開催について

次回以降の研究会開催は調整中であり、決まり次第あらためてお知らせします。

## 7. 各研究会の概要報告

### (1) 第27回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年11月26日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：①2名の執筆者(福元公子さん、安田和絃さん)からの発表と意見交換

- ② 編集・構成についての意見交換
- ③ 研究会合同イベントについて意見交換

当研究会合同イベントは、3月上旬に発行される書籍『コミュニティ学のススム』をベースに3月26日(土)に開催されます。(島村 記)

## (2) 第28回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年12月17日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：① 出版社への入稿直前の最終チェック  
② 研究会合同イベントについて意見交換

当研究会合同イベントの内容についていろいろと意見交換を行ないました。(島村 記)

## (3) 第91回 社会保障研究会の報告

- 1) 日 時：2015年12月2日(水) 18:00~20:00
- 2) 場 所：日本労働者協同組合連合会会議室 (ISP タマビル8階)
- 3) 講 師：池田心豪 (日本労働政策・研修機構 JILPT)
- 4) テーマ：「これからの仕事と介護の両立支援—育児・介護休業法改正とその先の課題」

高齢人口の増加を背景に、これまで主たる介護者であった中高年の女性だけでなく、男性や若年層にも介護は広がりつつある。これにもなって正規雇用で働きながら家族を介護する労働者も増えている。育児・介護休業法は介護離職を防止するために介護休業を企業に義務づけているが、実際に介護開始時の勤務先に介護休業制度があるほど離職せず就業継続する割合は高くなる。法定を上回る介護休業制度については、休業期間が93日(3か月)を超える制度よりも複数回の分割取得を認められる場合に就業継続率は高くなる傾向がみられる。また、勤務時間の短縮よりも所定外労働免除の制度がある場合に就業継続率は高くなる。仕事と介護の両立支援制度の設計においては長期の休業や大幅な労働時間の短縮ではなく、なるべく出勤しながら柔軟に労働時間を調整できることが望ましいといえる。このような労働時間管理としての両立支援に加えて、介護においては健康管理としての両立支援の視点も重要である。介護疲労が介護生活に望ましくない影響を及ぼすことはよく知られているが、仕事での居眠りやヒヤリハット経験、ノルマ等の目標未達成といったように仕事にも悪影響がある。この介護疲労は深夜や早朝、休日といった勤務時間外の介護負担によって蓄積している可能性がある。離職者や休業取得者だけでなく、通常どおりに出勤している介護者にも注意を向ける必要があるといえる。(池田心豪 記)

## (4) 第26回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年12月2日(水) 18:30~20:30
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 33号館16階第10会議室
- 3) 報告者：沼田真一 (早稲田大学社会科学研究所大学院博士後期課程)
- 4) タイトル：「ナラティブアプローチを通じた田野畑村の研究(1)―震災復興過程における村民と支援者がそれぞれに描く田野畑村の全体像―」

田野畑村は、岩手県陸中海岸にある久慈市と宮古市の間に位置する人口約3600人の小さな村です。この村と早稲田大学は、植林活動や自然に触れる合宿、地域研究などを通じて50年以上のつながりを持っています。沼田さんは、所属ゼミの一員として学生たちと村に滞在し、東日本大震災以降の復興過程での、村民の村についての価値観の変化を探るため、村人へのインタビューを映像で記録し、その語りをナラティブアプローチ、テキストマイニング(KHcoder)を用いて興味深い分析をされています。つまり、村人の語りに出てくる言葉の種類を分類し、また、使用される頻度と言葉相互の関連の深さを数値化し、それらを村の歴史的時期に対応させていくという方法によって、かつての村について抱かれていた価値観が、現在、どのように変化してきたかを見ようとしています。

その結果、かつての村のイメージは、「貧しい」、「厳しい」、「険しい」という言葉が主流（ドミナント・ストーリー）であったのが、今後は、「豊か」、「やさしい」（オルタナティブ・ストーリー）に変わっていくことが予想されるといいます。それは、前者の語りが高齢者に多く、後者は若者の語りに多いからです。その背景には、道路整備や鉄道の開通、外部の人との交流、村びと相互の協力関係、自然の豊かさへの依存などが見られます。しかし、「若者」や「人口」という言葉は、人口流出が続いていることを反映して時代を超えて出てくるといいます。また、自然との共生のなかで、震災に関しては、「恐ろしい」と「豊かさ」、「喜び」が同居していることなど、この村の地域的特質をよく表しているということです。また、都会から来た人や地元出身の人の使う言葉の微妙な違いなども、興味を惹くところです。（長田 記）

\*前号のニュースでは、第26回を第25回、第27回を第26回研究会と誤った表記をしてしまいました。お詫びして訂正させていただきます。

## (5) 第27回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年2015年12月16日（水） 18:30~20:30
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス 39号館5階 第5会議室
- 3) 報告者：沼田真一（早稲田大学社会科学研究所大学院博士後期課程）
- 4) タイトル：「ナラティブアプローチを通じた田野畑村の研究(2)－震災復興過程における中学生が映画作りを通して描く個人と村の葛藤－」

前回に引き続き、今回第27回では、田野畑の中学生に映画をつくってもらおう試みを通じて、その映画の内容を分析した結果を報告していただきました。2012年8月の2日間で、4グループに分かれた田野畑の中学生に、それぞれ自分たちで脚本を書き、田野畑についての5分間の映画を4本つくってもらいました。震災後の津波で崩壊した三陸鉄道駅や、海や山の自然を背景として、期せずして彼らは、田野畑の過去や未来に自分たちがタイムスリップする物語をつくったといえます。その1つは、田野畑が南の岩泉町と合併することに決定した未来を想定し、そこから現在の時点に戻ってそれを阻止しようとする物語でした。また別の映画は、自分たちが失った周囲の風景、遊び、スポーツの体験などを取り戻すために過去に戻る話でした。さらには、村になじめない転校生に、村で育った主人公が自分の能力を示すことでその友情を獲得していく物語、最後に、自分の将来の進路について悩みを抱えた自分の思いを聞いてもらえる未来人などが登場する物語など、そこには、本来の田野畑の魅力や誇りとそれを守りたいという気持ち、あるいは震災で失った大切なものを取り戻したいという子どもたちの願い、高校のない村なのでいざ出でなければならぬ自分の進路についての悩み、など、「いまだ語られぬ物語」（オルタナティブ・ストーリー）が語られていました。また、映画づくりというワークショップを通じて、貴重なソーシャル・キャピタル（社会関係資本）が生成されてくるという仮説も想定されており、これからの田野畑にどのようなドミナントストーリーが生まれるのかについて、大変興味深い話が聞けました。（長田 記）

## 8. 「大磯コミュニティ・カレッジ」講演会のご案内

濱口副会長が発起人として立ち上げられ、当学会が後援する表記講演会の第三期プログラムで当学会会員の坂田正顕さんが3回講演されますので、ご案内致します。

### 1) 坂田正顕さんの講演

- ① 日 時：2016年2月4日（木） 14:30~16:30  
テーマ：巡礼とは何かー現代社会と巡礼ー
- ② 日 時：2016年3月3日（木） 14:30~16:30  
テーマ：日本の巡礼ー四国遍路を中心にー
- ③ 日 時：2016年4月7日（木） 14:30~16:30

テーマ：世界の巡礼ーサンチャゴ巡礼を中心にー

- 2) 会 場：JR大磯駅前のエリザベス・サンダース・ホーム地域交流スペース
- 3) 申込・問合せ：電話0463-61-0476（こみゆにてー・パティオかりん・富山氏）
- 4) 参加費：1回 1,000円

（島村記）

**事務局のオープンは年末12月25日（金）迄、年始は1月6日（水）からとなります。**

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX：(03) 5778-4728

eメール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL：<http://www.jaas.jp/>